

## 小山五郎氏を悼む

長年にわたり三井文庫の発展に尽くされた小山五郎氏（三井文庫最高顧問）が、平成一八年三月二日に逝去されました。

小山五郎氏は、明治四二年三月、大島戸一・はん夫妻の五男として群馬県にお生まれになりました（後年、小山完吾氏の養子となり小山姓に改まる）。氏は、高校生時代の昭和二年、金融恐慌の際に、父が頭取を務められた上毛実業銀行が破綻に瀕するという出来事に遭遇されました。この深刻な経験から、日本資本主義の研究を志し、東京帝国大学に入学、日本経済史専攻の土屋喬雄教授の演習に参加されました。この経緯については、ご自身の口から私どもが常々うかがったところであります。氏の卒業論文たる桐生織物業の研究は、学術論文として評価さるべき内容をもつものであります。

昭和七年、昭和恐慌の渦中に大学を卒業し三井銀行に入社された小山五郎氏は、戦時期の金融統制、銀行合併、終戦、財閥解体、戦後復興、高度経済成長と、まさに疾風怒濤の時代に、バンカーとしての生涯をすごされました。その間、昭和三四年に取締役、四三年に社長、四九年に会長、五七年に相談役と歴任された氏は、戦後の三井銀行を担った経営者たるにとどまらず、三井不動産の江戸英雄氏とともに、三井グループのリーダーとして活躍されたことは周知のことと言えましょう。氏は、多忙な経営者・財界人としてその生涯をすごされましたが、学問研究とくに経済史の研究については、終生、強い関心を持ち続けられました。三井銀行は『三井銀行八十年史』（昭和三二年）、『三井銀行一〇〇年のあゆみ』（昭和五一年）を編纂・刊行し、また昭和五八年の三井両替店開店三百年記念に際しては『三井両替店』を

上梓しております。これらが、学界からも高い評価を得る歴史研究・金融史研究の成果となり得たのは、小山五郎氏の強力なサポートあつてのことでした。三井銀行では、昭和五年には、大英断をもつて、所蔵する貴重資料から『三井銀行史料』（全六巻）を編纂・公刊しておりますが、これは当時会長職にあつた氏の存在なくしては実現しえなかつたと言つても過言ではないかと思ひます。

三井文庫の再建と発展も、小山五郎氏に大いに負うものであります。昭和四〇年、財閥解体後文部省に寄託されていた旧三井文庫資料をもとに、三井グループの支援を得て財団法人三井文庫が発足する際にも積極的に尽力され、昭和五年からは理事として、平成一〇年からは最高顧問として、三井文庫の発展を支えてくださいました。三井文庫別館が、三井家から文化財の寄付をうけて発足（昭和六〇年開館）するに際しては、当時の江戸英雄理事長とともに、その実現に邁進されました。学術文化に対する深い理解と、支援への強い責任感には、敬服のほかありません。

昨年一〇月、氏が晩年深く心がけておられた三井記念美術館が完成・開館の運びとなりました。残念なことに、新美術館に足を運んで御覧いただくことはできませんでしたが、病床においてその開館をこの上なく悦ばれた由を承りました。私ども三井文庫の関係者一同、長年にわたる御教導と御芳情に心から御礼を申し上げますとともに、御冥福を祈念申し上げます。

（三井文庫常務理事文庫長 由井常彦）